

### 1. 活動報告（事務局 記）

—5月6日（日）会員13名が参加し、水路の整備（稲作開始に向けた周辺の除草および溝上げ、道路沿い水路の整備）と蓮田および湿地帯のキショウブ除去の作業を実施しました。作業開始前に関根事務局長より、ESDおよび中電ボランティアについての説明がありました。休憩時には役員会議を実施し、今後の日程（特に田植え）について話し合いをしました。新会員の戸成さんが参加されました。雨の降る中、参加された会員の皆様お疲れさまでした。

—5月17日（木）二俣瀬小学校3・4年生11名 先生2名の「ビオトープで学ぼう」の校外学習を原田事務局が案内いたしました。ヤマカガシ・シマヘビ・マムシ等蛇が沢山いて児童のみでは危険でありました。入場時の看板説明を詳しく説明し、「ビオトープをつくる会」会員の活動についても説明しました。外来動植物と在来動植物について併せて説明しました。

—5月19日（土）親子自然観察隊は「野鳥観察」でした。常盤動物園の白須さんを講師にお願いして、ビオトープ周辺を観察しました。曇り空で、厚東川も増水していましたが、19種の野鳥が観察されました。参加者は、観察隊（親11名、子16名）、山大学生4名、会員家族1名、会員9名でした。

### 2. 今後の予定（事務局 記）

#### ◎来訪者

—5月26日（土）福川子どもクラブ

—5月30日（水）中国電力山口電力所ボランティア活動

#### ◎行 事

—5月27日（日）維持活動（田植え準備、溝上げ・草刈り）

—6月10日（日）稲作体験（田植え）

—6月16日（土）維持活動（草刈り）

—6月23日（土）維持活動（草刈り）

### 3. 来訪者の声

今回はありません。

#### 4. 会員の声 「夏は来ぬ」 (原田満洲夫 記)

唱歌 #卯の花の匂う垣根にホトトギス・・・まさに里山ビオトープは夏が来ました。ホトトギスは高い木のとっぺんにてケッキョ！ケッキョと高鳴きしている。ビオトープの東屋では癒される思いでいっぱいです。

南面の山合では椴（うつぎ）の花「卯の花」が眞白に垂れ下がり、山法師ノ木は大内菱の形をした白花を、新緑の中で冴えを引き立たせている。空は二羽のツバメが巣作りか？餌を探しているのかスイスイと飛泳いでいる。

今年も稲作が始まり田んぼの作業も忙しさを増してくる中、一時の休息をこのビオトープで過ごすことが出来、本当に幸せを感じる時期である。そこでハーモニカで一曲「夏は来ぬ」を吹き上げる。

“卯の花の 匂い嗅きて (かきて) ハーモニカ”

#### 5. 親子自然観察隊 「野鳥観察」 (管 哲郎 記)

前日は雨で今日の観察会が心配されましたが、幸い朝には雨も上がり少々肌寒いくらいの天気となり、鳥たちの出現も危ぶまれましたが、それでも19種ほどの鳥を観察することができました。講師には常盤動物園の“白鳥の先生”白須道隆氏に来ていただき、観察中にいろんな鳥類の生態をお話ししていただきました。隊員の出席者も12家族27名、山口大学より4名の参加、ビオトープの会員も多数参加いただいてにぎやかに観察会を行いました。

観察会の終わりには「鳥合わせ」を行い、どんな鳥が見られたかを確認しました。

1. ツバメ
2. スズメ
3. ヒバリ
4. ウグイス
5. カワラヒワ
6. ホオジロ
7. イソシギ
8. ホトトギス
9. ハクセキレイ
10. セグロセキレイ
11. シジュウガラ
12. ドバト
13. キジバト
14. ハシボソガラス
15. シラサギ
16. ダイサギ
17. アオサギ
18. トビ
19. ミサゴ

思った以上に多かったようです、やはり専門家においていただくと種類が多くなりますね。なお、双眼鏡も20台常盤動物園より貸し出していただき、隊員のご家族に使っていただきました。扱い方も事前に教えていただきましたが、低学年のお子達にはちょっと難しかったかな！野鳥の観察で思ったことは、冬鳥、夏鳥、渡り鳥、越冬種などを勉強していないと、判断が難しいと思いました、今日は大変良い勉強をさせていただきました。皆さまお疲れさまでした！



野鳥の観察会



「鳥合わせ」の様子

## 6. ピオトーブ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(29) オオスズメバチ *Vespa mandarinia japonica* Radoszkowski

ハチ目(細腰亜目) スズメバチ科

日本産ハチ類の中で最大のハチであり最も危険なハチです。名前を聞いただけで逃げ出しなくなる獯猛なハチです。北海道から九州までに生息し、全国的にあちこちで事故を起こしており、困った存在の昆虫ですね。

4月～10月が活動期間ですが、夏から秋にかけてより攻撃的になりますので、注意が必要です。スズメバチは動き回るものに強く反応し攻撃してきますので、出会ったら静かにゆっくりとその場を離れましょう。また、黒いものに反応します、山歩きではできるだけ黒い服装は避け黒い髪の隠れる帽子を着用しましょう。長袖、長ズボンで肌の露出をなくし、首周りにはタオルを巻いておくと少しは安全です。

スズメバチの巣は山道わきの草むらの土の中や木の切り株の下などにもありますので、農道や林道を歩くときには真ん中を歩くことが無難です。チョウやカナブンなどと一緒に樹液をなめているときはそんなに攻撃的ではありませんので、カブトムシやクワガタを採集するときは大丈夫ですが、むやみに刺激しないように気を付けましょう。

筆者の目の前でカナブンがオオスズメバチに攻撃され、たちまち肉団子にされるところを目撃しました、硬いカナブンの翅も簡単にかみ砕いてしまいました。



カナブンとオオスズメバチ



オオスズメバチの吸蜜



オオスズメバチの狩り (カナブンを簡単にかみ砕く)

## 7. 会よりの連絡事項

今年も「稲作体験」を行い田植えの準備に入っています。今年は私事で稲作のバックアップが疎かになることを申し出て皆様会員の方々に今まで以上にたくさんお力お借りする事になります。下記よろしくお手伝いをお願いいたします。

### 記

- 1) 追加活動日 5月27日はヨケジの畔を子供が上がってもよい様に広くつくる  
(田んぼの周囲はそれまで草刈りをしておきます)
- 2) 6月9日で活動予定外田植え前準備を15時より行います。

## 8. 編集後記

いつもよく聞くラジオ番組で、先日は『生物多様性』がテーマで話されていました。近年は、人間による開発や外来種の持ち込み、地球温暖化などで1日に100～150種絶滅しているとのことで、その数にびっくりしました。メダカ(野生メダカ)も絶滅危惧種だそう。『生物多様性』を守る方法として、「地元でとれたものを食べ、旬のものを味わう」、「生の自然を体験し、動物園や植物園を訪ね自然や生き物にふれる」などが挙げられていました。自分の子どもに、もっと自然の中で過ごし、様々なことに感じるができる人になってほしい、また、日々の生活は慌ただしいですが、そんな中でも季節を感じながら丁寧に生活していきたいと思いました。

( 大野 靖子 記 )